

令和  
5年度

# 町政執行方針

## 教育行政執行方針

令和5年第1回当別町議会定例会で、新年度の町政執行方針および教育行政執行方針が後藤町長、三澤教育長からそれぞれ述べられましたので、その内容と新年度の予算概要をお知らせします。



### カーボンニュートラルの取り組み

これまでに、公共交通におけるBDFの活用や森林資源を活かした公共施設への木質バイオマス燃料の導入、各町内会への街路灯LED化の支援などを実施しました。

このような取り組みを土台とし、2050年までの脱炭素社会を目指し、令和3年4月に「ゼロカーボンシティ」の宣言を行い、令和4年度にはロイズタウン駅において地中熱を活用したロードヒーティング設備を導入しました。

併せて、今後の目標達成に向けたロードマップとなる「当別町ゼロカーボン推進計画」の策定にも取り組み、サステナブル（持続可能）な社会の実現を目指します。

### 人口動態とまちづくりへの展望

人口全体は減少傾向にあるものの、総務省統計に基づく昨年の「社会人口」は、子育て世帯を中心に69人の増加となり、これまでの取り組みの成果が現れています。

その一方、本町のまちづくりの重要なファクターである「雪対策」では、今シーズンも災害級の暴風雪が発生し、国道・道道が通行止め、JRも運休となりました。毎年のように発生するこのような災害に迅速に対応できる「災害に強いまちづくり」の実現に向け、関係機関との連携強化や、さらなる除排雪サービスの充実など、各種対策の検討を進めます。

### ウィズ/アフター・コロナ時代への対応

5月には、感染症法における「5類」への引き下げ措置にとめない、ワクチンや医療機関での扱いなど、様々な変更が想定されます。

今後のウィズ/アフター・コロナ時代を安心して生活できるよう、マスクの有無を含めた感染症対策について、国・道の方針や社会動向などの情報収集を行い、迅速に町民の皆様へ情報を伝えつつ、社会経済活動の再開を図っていく考えです。

### デジタル田園都市の実現に向けて

これまで、高齢者への「デジタルデバインド対策」や小中学生への「プログラミング教室」の開催、「LINE」を活用した町の情報発信のほか、商工業者への「キャッシュレス決済」など、施策の種まきを進めました。

この歩みをさらに加速させるべく、「当別町まち・ひと・しごと創生総合戦略（第2期）」の改訂作業を進め、新たな戦略プランとして『デジタル基盤の構築～デジタル田園都市「Tobetsu “DIGI” town」の創造～』を掲げたところです。

この新しい戦略プランは、デジタル技術の導入によって、日常生活のあらゆる場面をデジタルが支え、誰もが安心して住み続けられる、データ駆動型社会の形成と「Society 5.0」の実現を通じ、少子高齢化による人口減少を克服し、次代に引き継ぐための礎となるものです。

## 企業誘致推進プロジェクト 商工業活性化プロジェクト

大手ドラッグストアの西当別地区における開業の協議が整いつつあり、これにより、よりよい住環境の構築と、さらなる定住の促進が期待されます。また当該企業が持つデジタル技術を活用した「ポイントカードシステム」の導入について、商工会や関連事業者と検討します。

## 再生可能エネルギー利用プロジェクト 林業振興によるエネルギーの地域循環プロジェクト

「地域脱炭素移行・再エネ推進交付金 重点対策加速化事業」にチャレンジし、町民や町内事業所における再生可能エネルギー設備の導入支援を実施する考えです。

カーボンニュートラルの根幹となる林業振興では、北海道との連携による林業専用道の開設に向けた準備を行い、さらなる森林整備を進めてまいります。

## 道の駅プロジェクト

株式会社セブン-イレブン・ジャパンと連携し、新たな顧客の獲得に向けた第一歩として、道の駅内にセブン-イレブンを開業させ、また当別町産の黒豆やきな粉を活用した商品を開業に併せて札幌近郊の123店舗で販売するなど、当別町産品を活用した商品を広めました。引き続き、株式会社tobeによる新商品開発・6次産業化を支援します。

## 農業10年ビジョン推進プロジェクト

「水田活用の直接支払交付金」の見直しにより本町の農業は大きな転換期を迎えていることから、農業の将来像や経済成長への道筋を示す「農業10年ビジョン」の見直しを進めております。

また地域おこし協力隊を増員し、担い手対策を拡充するほか、花きのスマート農業実証事業を継続して、施設園芸分野におけるスマート農業の研究をさらに深めます。

このほか、国の「みどりの食糧システム戦略」の推進策として、有機農業などによる環境負荷低減や、付加価値の高い農産物を生産する農業者への新たな支援も実施します。

戦略プラン1の主要な事業	予算額
町内会街路灯LED化事業	257万円
担い手確保推進事業	1,610万円
環境保全型農業直接支払交付金	213万円
当別町地域間交流拠点施設（道の駅）指定管理業務	4,849万円
再生可能エネルギー設備導入推進事業	7,940万円
林業機械補助事業	1,200万円
道営林業専用道「中小屋線」開設事業負担金	677万円
道路照明施設更新事業	2,000万円

## 新しいまちの顔づくりプロジェクト

ロイズタウン駅周辺エリアに町内外の注目を集めることが重要と考えており、自動運転バスの実証運行を核とした賑わい創出事業に取り組み、まちのPRと周遊観光促進による交流人口増加と企業誘致の推進に繋がります。

## 駅周辺再開発プロジェクト

現在、役場庁舎建て替えの検討など、当別駅を中心に「立地適正化計画」に基づくコンパクトなまちづくりに取り組んでいます。

これに関係する都市機能の誘導として、「第2期町営住宅等長寿命化計画」に基づき、末広団地7戸の移転補償や東町団地の一部解体実施設計を進めるほか、建設予定の民間ビル内に公共的施設を設置するなど、本町地区における賑わい創出や新たな人の流れを構築するため、図書館の施設配置等、事業化に向けた検討を行います。

## 移住促進プロジェクト

住宅地造成による分譲地の促進を図るため、民間による宅地造成の後押しとなる支援制度の議論を深めるなど、定住人口の増加に繋がります。

戦略プラン2の主要な事業	予算額
当別町コミュニティバス運行事業	2,671万円
新築住宅購入支援金	6,000万円
JR札沼線代替バス（月形当別線）運行事業補助金	2,938万円
ロイズタウン駅エリア賑わい創出事業	4,378万円
JR札沼線新駅（ロイズタウン駅）駅前広場整備事業	1,540万円
当別駅南口都市構造再編集集中支援事業	560万円
新庁舎整備プロジェクト	484万円
当別町観光協会補助金	520万円

## 小中一貫教育推進プロジェクト

本町が目指す一貫教育は学力向上を最大の目的として、ICTを活用した質の高い教育を進め、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図ります。

併せて、小中学生を対象とした民間ノウハウを活用したプログラミング教室の開催に取り組むほか、とうべつ学園グラウンド整備や西当別中学校屋内体育館外壁改修工事を実施するなど、学校環境の改善を進めます。

## 子育て世帯応援プロジェクト

移住促進施策の効果により増えている子育て世帯の幼児教育・保育ニーズに応えるため、認定こども園おとぎのくにの園舎建て替えと、保育士の配置を増加させる支援を行い、入園を希望する子どもの受け入れに対応できる体制を整え、質の高い保育の提供に取り組みます。

戦略プラン3の主要な事業	予算額
産後健康診査事業	50万円
食育推進事業	170万円
当別町一体型義務教育学校（とうべつ学園）建設工事	2億2,419万円
デジタル教育推進事業	1,763万円
地域部活動支援事業	50万円
とうべつ未来学推進事業	34万円
プログラミング教室事業	324万円
西当別コミュニティセンター改修工事	5,000万円
認定こども園おとぎのくに施設整備事業	4億3,109万円
保育体制充実事業	1,296万円
子育て支援センター（西当別地区）運営業務委託	1,004万円

## 災害に強いまちづくりプロジェクト（新庁舎）

新庁舎建設は、新庁舎建設検討委員会で議論を進めており、まちの賑わい創出に繋げ、将来的な社会情勢の変化に対応した施設としての役割が求められています。

新庁舎の検討は、既存の公共施設の利活用や民間企業との連携、デジタル化推進などサービスの向上を図りつつ、事業費とのバランスが取れた適切な規模となる「スマート庁舎化」をベースに議論を進めます。

## 災害に強いまちづくりプロジェクト（雪対策）

新たな除排雪の在り方「当別モデル」を構築し、冬季間の生活環境改善に努めており、令和4年度は太美雪堆積場を新たに開設するなど、除排雪作業の効率化を図りました。

災害規模の降雪の際は「オール当別」で対応する体制を構築し、夜間排雪など排雪時間の延長も実施します。

これらと併せて、北海道開発局や北海道警察等の関係機関と連携を図り、必要に応じて災害対策本部を設置するなど、冬季も安心して暮らせる体制を整えます。

## 地域・在宅医療確保対策プロジェクト

町内の医療体制確保を最重要課題と捉え、「医療機関誘致条例」を制定し、誘致に取り組んだ結果、消化器内科と耳鼻咽喉科の誘致に繋げることができました。新年度は訪問診療に強みを持つ医療機関の誘致を予定しています。

## 地域福祉推進プロジェクト 北海道医療大学連携プロジェクト

医療系総合大学である北海道医療大学には、これまで医療・介護・社会教育など様々な分野で、本町の地域福祉を支えていただいています。

特に、北海道医療大学、地域包括支援センター、町が協働で実施している「フレイル予防教室」は、健康寿命の延伸に繋がるものであり、今後、西当別地区へ拡大を図り、高齢者の健康・生活支援にも取り組み「人生100年時代を支えるまち」の実現を目指します。

戦略プラン4の主要な事業	予算額
北海道医療大学連携推進プロジェクト事業	300万円
当別町健康増進計画等策定事業	86万円
地域生活サポーター活動支援事業 ※介護保険特別会計	224万円
買物支援事業 ※介護保険特別会計	206万円
地域リハビリテーション活動支援事業 ※介護保険特別会計	33万円
町道除排雪事業	5億4,950万円
橋梁長寿命化修繕事業	7,650万円
町道十六線道路改修事業	800万円
パンケチュウバシナイ川河川 <sup>しんげつ</sup> 浚渫事業	1,600万円
ガンビ沢川河川 <sup>しんげつ</sup> 浚渫事業	1,500万円

## 各種証明書のコンビニ交付事業

マイナンバーカードを活用し、札幌市などでも住民票などの交付が受けられるシステムを構築・運用します。

これに併せて、デジタルを活用したサービスの利用が苦手な方に対して、デジタルデバインド対策とマイナンバーカードの交付申請サポートを実施します。

## リモート相談窓口整備事業

より身近な場所で行政手続きに関する質問・相談などができるよう、各拠点を結びリモート相談窓口を整備します。

それぞれの窓口を結ぶ端末を役場本庁舎、ゆとろ、太美出張所のほか、札幌市中心部への設置も検討しており、役場庁舎窓口の新たなスタイルを目指します。

## デジタル教育推進事業

個別課題を把握し、個別最適な学びを実現するため、各学校における AI ドリルの導入をはじめ、ICT 支援員の派遣、プログラミング教室の実施、デジタルリテラシーの習得促進などに取り組みます。

## 気象観測システム導入事業

本町には、気象庁によるアメダス観測所が設置されていないため、新たに気象観測器を設置し、気象情報データの収集、蓄積を行い、様々な分野での利活用を図ります。

気象観測器は、ライブカメラとともに本町地区・西当別地区へ1カ所ずつ設置し、リアルタイムで公開します。

また、各種観測値が一定値を超えた場合には、町ホームページや SNS を活用して警戒を呼び掛けるなどの情報発信も行います。

戦略プラン5の主要な事業	予算額
業務自動化システム運用事業	452万円
デジタルデバインド対策事業	125万円
高度無線環境運用事業	574万円
リモート相談窓口推進事業	745万円
証明書等コンビニ交付事業	990万円
気象観測事業	4,545万円

# おわりに

## 少子化対策への考え方

令和4年度は、とうべつ学園の開校や新築住宅購入支援金をはじめとする移住施策によって、子育て世帯を中心に転入超過となりました。これから「定住人口増加の町」へと向かうためには、少子化対策に注力する必要があると考えています。

国も4月に「こども家庭庁」を発足させ、また秋には「こども大綱」が閣議決定される見込みであり、本町としても少子化対策の中でも効果が見込まれる分野・必要な対策に狙いを定めた検討を進めます。

## ウェルビーイング well-being

「人生100年時代」に突入している現代、経済的要因のみでは幸福度を満たすことはできず、この町で安心して暮らすことができるよう、ひとり一人が心身と社会的に「幸福感・満足感」が得られる、well-being なまちの在り方を模索し、それぞれの年代に即したデジタル技術を活用した施策の展開を図りたいと考えています。

## 関係人口・定住人口とまちづくり

関係人口増加への取り組みも、定住人口増加へと繋がるものと考えており、その一つであるふるさと納税は、令和3年度で約22万件的の寄付がありました。この22万件的の寄付者、いわゆる「当別町応援サポーター」との関係性をより深化させ、「関係人口」へとステップアップさせる取り組みも重要です。

これらと併せ、行政のDXはもとより地域のDX化による課題解決の工夫とそれを実現させる「DX協議会」の組成なども検討します。

その他の事業	予算額
人口ビジョン改訂版策定業務委託	475万円
消費者行政強化事業	504万円
町内会運営費補助金	805万円
合併処理浄化槽設置整備事業	286万円
公共下水道管渠布設事業（汚水） ※下水道事業特別会計	1億805万円
配水管整備業務（布設管） ※当別町水道事業会計	9,040万円
救急救助器具購入事業	107万円



## 教育行政執行方針

### 未来を拓く9年間 当別町小中一貫教育

昨年4月に、小中一体型の義務教育学校「とうべつ学園」が開校し、西当別小学校・西当別中学校で実践する小中分離型の一貫教育と合わせて、それぞれの強みを生かした当別町ならではの教育を展開する新たなステージが始まりました。

令和5年度は、この新たなステージで当別町が目指す教育を、誰もが共有できるキャッチフレーズとして『未来を拓く9年間』当別町小中一貫教育』をかかげることとしました。

町の宝である子どもたちが、自らの未来を拓き、やがては町の未来を拓く人材として育つことを願い、町内外の教育力を結集し家庭、学校、地域が組織的で魅力的な教育活動を実践します。

## 基本方針

幼保との連携、義務教育9年間の学びの連続性を踏まえた教育課程による「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」の育成を基本方針とし、ICTを効果的に活用し、児童生徒の学ぶ意欲を引き出す主体的・対話的で深い学びの実現に努めます。

特に、学校における教育の重点を、授業の質を向上させる「授業改革」に置き、子どもたちの学力と学びの保障に取り組みます。

## 施策の展開

### 学力向上

- ・ ICT 支援員の配置や AI ドリルの導入により、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実
- ・ 学力向上推進講師や支援員・介助員・看護師の独自配置を継続し、習熟度に合わせた学習支援の実施
- ・ とうべつ未来学の充実のため、地域資源を生かした授業の展開を推進

### 学校と地域による連携

- ・ スクールソーシャルワーカーによる支援の充実、スクールカウンセラーの活用や適応指導教室の校内設置の検討
- ・ 「学びのハンドブック」の積極的な活用
- ・ 論理的に物事を思考する力や創造性・問題解決能力の育成を図るプログラミング教室の実施
- ・ 地元食材の活用促進や姉妹都市の食材を使った給食、地域食材を生かした食育授業の充実
- ・ 拠点校方式による部活動の負担軽減のための移動支援の実施

### 子育て支援

- ・ 「幼保小接続プログラム」を活用し、学校入学時の引継ぎ、学校児童と園児の交流、学校とこども園・発達支援センター間の情報交流や研修などの充実
- ・ 認定こども園おとぎのくにの園舎建て替えに対する支援
- ・ 加配保育士配置への補助を1名から3名に増員

### 社会教育

- ・ 当別高校、北海道医療大学、日本体育大学の他、総合型地域スポーツクラブなど地域の団体との連携強化
- ・ 古文書解析など、当別歴史・文化プロジェクトの充実
- ・ ことぶき大学などをはじめとした多世代交流の促進
- ・ 地域人材を活用し、放課後学習会、土曜教室・地域巡検による子どもの学びの場の創出
- ・ 子どもたちのスポーツ・文化活動に対する支援
- ・ 図書館と学校図書館との連携強化とともに、多くの方が読書に触れる機会の充実

### 施設整備

- ・ 西当別中学校屋内体育館の外壁修繕、西当別小学校・西当別中学校における放送設備の改修
- ・ ICT を効果的に活用するために有効な電子黒板を、西当別小学校と西当別中学校に導入
- ・ 西当別コミュニティセンター温水管等改修工事の実施

# 令和5年度 当初予算の概要

## 当別町各会計予算

195億780万円

( ) 内は前年度との比較  
(-1億6,554万円)

会計名	令和5年度予算	令和4年度予算	対前年比増減	増減率	
一般会計	134億422万円	135億6,756万円	-1億6,334万円	-1.2%	
特別会計	国民健康保険	21億3,991万円	21億3,777万円	214万円	0.1%
	介護保険	17億2,369万円	16億8,704万円	3,665万円	2.2%
	介護サービス事業	6,599万円	6,606万円	-7万円	-0.1%
	後期高齢者医療	2億9,373万円	2億8,913万円	460万円	1.6%
	下水道事業	9億5,315万円	10億274万円	-4,959万円	-4.9%
水道事業会計	9億2,711万円	9億2,304万円	407万円	0.4%	
合計	195億780万円	196億7,334万円	-1億6,554万円	-0.8%	

## 当別町一般会計予算

134億422万円

(-1億6,334万円)

### 歳入

**町税** 14.9% 19億9,270万円  
(+6,755万円)  
町民税や固定資産税など

**地方交付税** 28.4% 38億1,295万円  
(+5,827万円)  
国から交付される依存財源

**使用料及び手数料** 1.0% 1億2,960万円  
(-359万円)  
施設使用料等の利用者負担分

**国庫支出金** 12.5% 16億7,319万円  
(+7,632万円)  
国からの補助金など

**道支出金** 4.8% 6億3,783万円  
(-9,674万円)  
道からの補助金など

**寄附金** 21.6% 29億100万円  
(+2億100万円)  
ふるさと納税寄付金など

**繰入金** 5.3% 7億1,758万円  
(-7,209万円)  
基金(町の貯金)からの補足分

**繰越金** 0.4% 5,000万円  
(0円)  
前年度予算の残額

**町債** 4.2% 5億6,680万円  
(-3億5,550万円)  
銀行等からの借り入れ

**その他** 6.9% 9億2,257万円  
(-3,856万円)  
財産収入や補助金収入など

### 歳出

**議会費** 0.7% 8,538万円  
(-302万円)  
議会の運営費

**総務費** 26.8% 35億9,386万円  
(+1億1,158万円)  
庁舎管理、税務、企画事業

**民生費** 20.1% 26億9,896万円  
(+5億1,737万円)  
高齢者福祉や児童福祉事業

**衛生費** 7.0% 9億3,336万円  
(+1億4,735万円)  
ごみ処理や保健衛生事業

**農林水産業費** 4.1% 5億4,951万円  
(-4,653万円)  
農業振興や農地、山林の整備

**商工労働費** 0.4% 5,026万円  
(-897万円)  
商工振興、観光事業

**土木費** 12.3% 16億4,540万円  
(-1億2,424万円)  
道路や公園の整備・管理、除雪

**消防費** 3.7% 4億9,790万円  
(-4,322万円)  
消防活動、救急救命

**教育費** 7.1% 9億5,566万円  
(-5億5,676万円)  
学校の維持管理、社会教育事業

**公債費** 6.2% 8億2,904万円  
(-1億5,633万円)  
町債(町の借金)の返済

**職員費** 11.6% 15億5,988万円  
(-57万円)  
職員の人件費

**その他** 0.0% 501万円  
(0円)  
災害復旧費、予備費